

第1章 大洗町の景観特性と課題の整理

1. 景観特性
2. 景観計画に向けた課題の整理



第1章 大洗町の景観特性と課題の整理

1. 景観特性

(1) 水辺・緑景観の特性

大洗町は海岸をはじめ、那珂川や涸沼の水辺に囲まれ、海岸沿いの松林等の緑地や、高台の緑豊かな集落景観が大きな特色となっています。

■水辺・緑景観資源



(2) 生活・産業景観の特性

南北に長い大洗町は、町域中心部に生活や産業を営む場である市街地が集まっています。海に近い低地部には昔ながらの商店街が続き、水産加工施設や民宿が点在する街並みが残っています。一方、台地部には新たな生活の場である住宅地や沿道サービス施設が広がっています。

■生活・産業景観資源



(3) 歴史・文化景観の特性

町内には、神社・仏閣などの歴史・文化資源や、文化財にもなっている建物や鳥居等の構造物が点在しており、特に町域北部の海岸沿いや市街地、那珂川沿いに集積しています。一方で、大洗海岸や大洗港周辺には、観光・レジャー施設が集積し、新たな景観を形成しています。

■歴史・文化景観資源

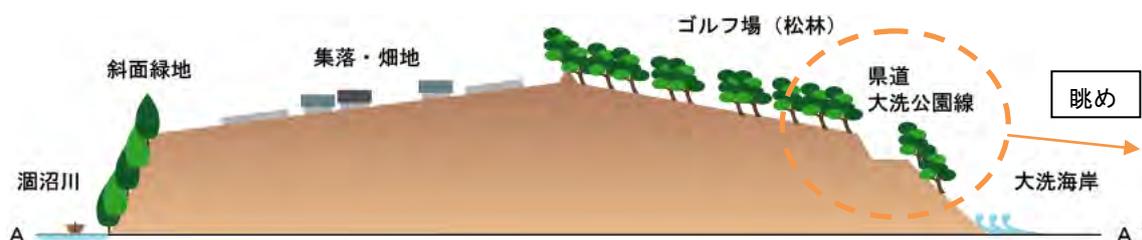


(4) 地形的特性

大洗町は、町域北部と南部は台地となっており、斜面緑地や松林等に守られた中に集落があり、海岸には緑のスカイラインが形成されています。また、台地の一部から海岸や涸沼沿いの広大な風景を眺めることができます。町域中央部には、市街地が発達しており、街なかの路地からは海の風景が望めます。大洗港付近にはマリンタワーを中心に新たな街並みが形成されています。

■大洗町の地形 断面（模式図）

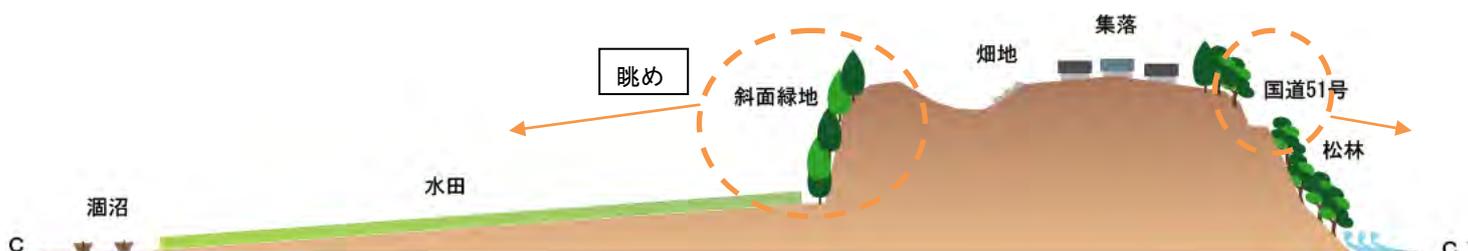
【町域北部】・・・・・・・・・・水辺・緑景観＋歴史・文化景観



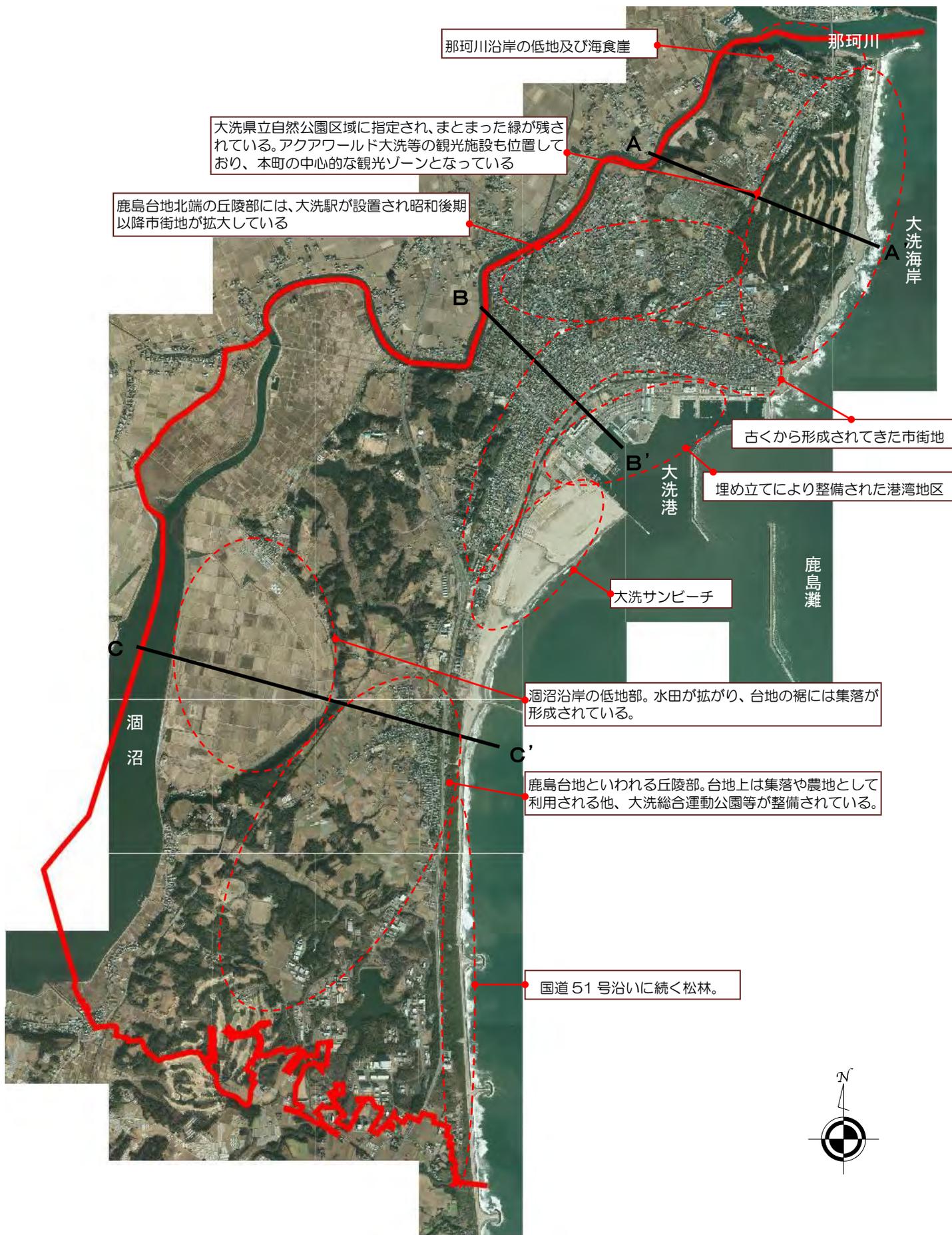
【町域中央部】・・・・・・・・・・生活・産業景観＋歴史・文化景観



【町域南部】・・・・・・・・・・水辺・緑景観＋歴史・文化景観



■地勢のアウトライン



2. 景観計画に向けた課題の整理

大洗町の景観特性を踏まえ、それぞれの課題を整理します。

(1) 水辺・緑景観の課題

■海岸景観の保全・景観誘導

海岸景観については、大洗町らしさや誇りを持てる風景として評価されていることから、さらに景観保全や誘導を進め、価値を高めていくことが必要であると考えられます。特に、町の骨格を形成する国道 51 号や、主要地方道水戸鉾田佐原線や県道大洗公園線などは海岸を走る道路として重要な景観軸でもあり、沿道における環境美化や、サービス施設の看板・広告物等、景観形成に大きくかかわる要素については、今後町民や企業との協議を重ねながら、景観誘導方策を検討していくことが必要です。

■斜面緑地や松林等の緑環境の保全

海岸沿いの松林や、台地と低地の間の斜面緑地は、水と緑に囲まれた大洗町の景観形成上重要な要素ですが、松林の立枯れや手入れ等については課題も多いことから、今後はまとまりある緑を保全し、集落や街並みとの調和を図っていくための保全方策を検討していくことが必要です。東日本大震災を経験した今、防災・減災に配慮する意味でも、緑地の保全は重要です。また、涸沼川沿いの広大な水田風景なども、生産の場としてだけでなく、集落とともに維持・保全を図っていく視点が必要です。

(2) 生活・産業景観の課題

■住宅地や商店街など生活の場での取り組み

区画整理された住宅地の街並みや商店街は、意向調査においても景観としての評価はあまり高くありません。しかし、生活空間を美しく保つことは暮らす人にとっても訪れる人にとっても重要であり、「地域の清掃・美化活動などに参加する」「地域や家庭で花や緑を植える」といった生活に密着した身近な場所から、緩やかに景観まちづくりを進め、さらには地区計画や協定、生け垣の推進などの取り組みも考えていくことしていくことが必要です。

■漁港などの営みの風景の保全・活用

漁港や魚市場、加工所、海に向かう路地などは人の営みの風景であり、心に残るどこか懐かしい風景こそ大洗らしさであるともいえます。これらは、町の暮らしを支えるだけでなく、後世に伝える貴重な景観資源でもあり、新たな景観づくりとの調和を図りつつ、今後も守り活かしていくことが必要です。

(3) 歴史・文化景観の課題

■重要景観資源の保全・活用

大洗町には「神磯鳥居」「大洗磯前神社」「海辺の朝日」のように数々の自慢できる風景が存在しており、今後は、文化財だけでなくそれらの景観資源を保全・活用していくための方策を検討していくことが必要です。特に、現在文化財指定を受けていない建築物や工作物、樹木についても、景観上の重要性を見極め、景観資源としてだけでなく、観光資源としての活用を検討していくことが必要です。

◆第1章 大洗町の景観特性と課題◆

■公共施設・余暇施設等の大規模施設の配慮

公共施設や観光のための余暇施設などの比較的規模が大きく、シンボルとなる施設は、町の景観形成を左右する要素にもなり、訪れた人々の町の印象にも大きな影響を与えます。このため、海や周辺街並みとの調和への配慮や、眺望景観を意識した整備のあり方を検討していくことが必要です。

■町の顔となる重点的な景観向上への取り組み

大洗駅周辺、旅館街、大洗港などは、町外の人も訪れる場所であり、観光面からも重要な場所であるといえます。近年では、アニメの影響により商店街を散策する人も増えています。これらの「町の顔」となる地区については、景観形成を図り、訪れる人をおもてなしするため、一歩進んだ工夫を図っていくことが必要です。

(4) 地域全体の課題

■眺望景観やビュースポットの保全・活用

海、那珂川、涸沼・涸沼川などの水辺の眺めとともに、街並みや筑波山などの山並みがみられることは、大洗町の景観特性として重要です。茨城百景や巖船一里塚ロードパーク等、既に眺望点として整備されている場所もありますが、そこへの案内やアクセスの向上、環境整備など、より多くの人を楽しめる場づくりを進めることで、地域をつなぎ、町全体で景観を楽しめるようになることが必要です。

■町民と事業者との協働による景観づくり

景観づくりは、町民や事業者の協力なしに進めることは困難です。意向調査によると、町民の景観づくりに対する関心は高く、今後、大洗町として景観づくりを進めるにあたっては、行政だけでなく、町民や事業者との協働により取り組むことが必要と考えられます。

【大洗町の景観づくりの課題】

①水辺・緑景観の課題

■海岸景観の保全・景観誘導

■斜面緑地や松林等の緑環境の保全

②生活・産業景観の課題

■住宅地や商店街など生活の場での取り組み

■漁港などの営みの風景の保全・活用

③歴史・文化景観の課題

■重要景観資源の保全・活用

■公共施設・余暇施設等の大規模施設の配慮

■町の顔となる重点的な景観向上への取り組み

④地域全体でつくる景観の課題

■眺望景観やビュースポットの保全・活用

■町民と事業者との協働による景観づくり